

高橋佳子

- 2005年 特許事務所入所
- 2011年 キヤノン株式会社入社
- 2016年7月～ 内閣府知的財産戦略推進事務局 参事官補佐
「経営デザインシート」の作成・普及啓発に携わる
- 2019年7月～ キヤノン株式会社 知的財産法務本部

〈現在の活動〉

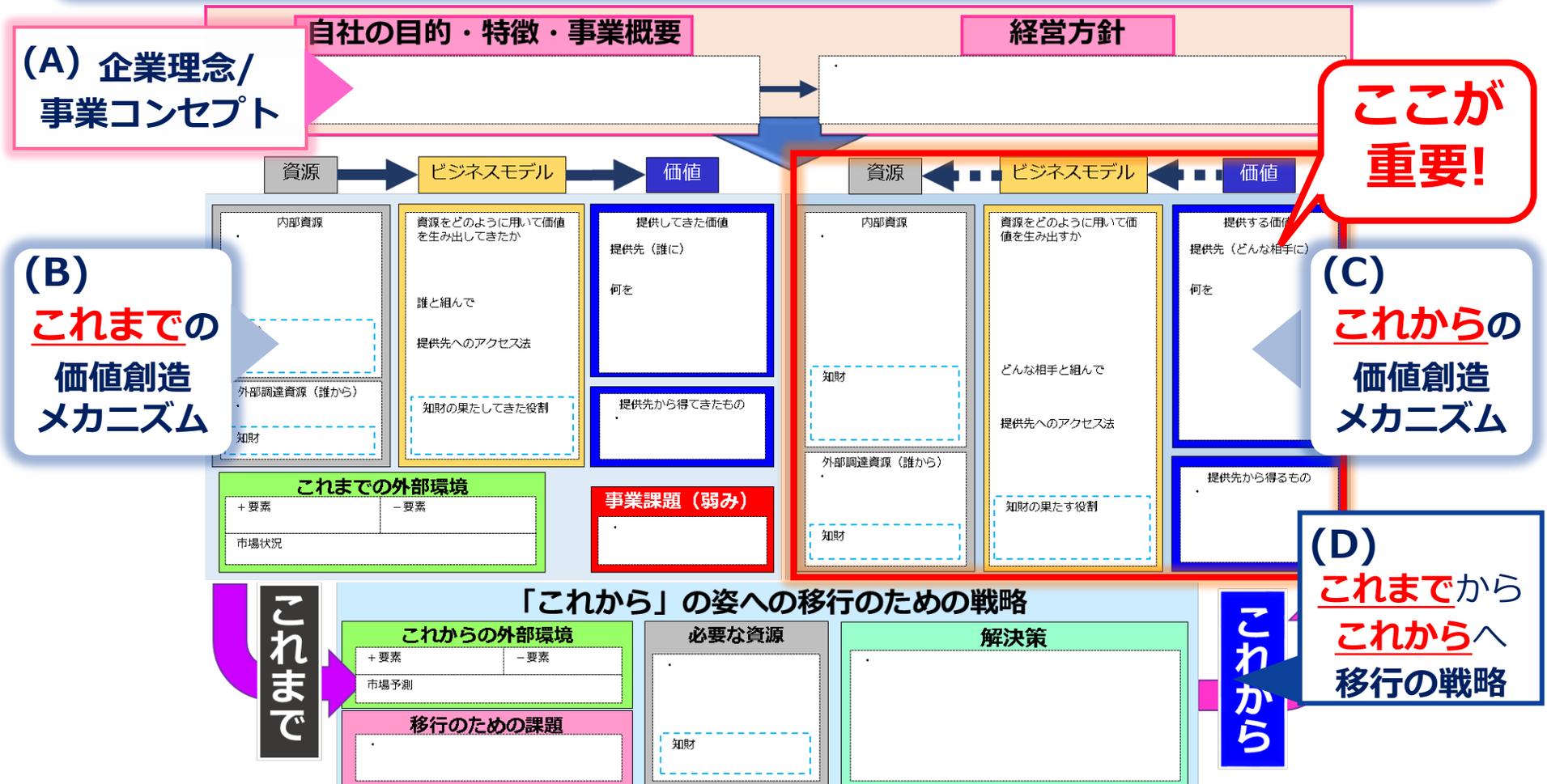
経営デザイン分科会 幹事

WICI スポットライティング分科会 参加

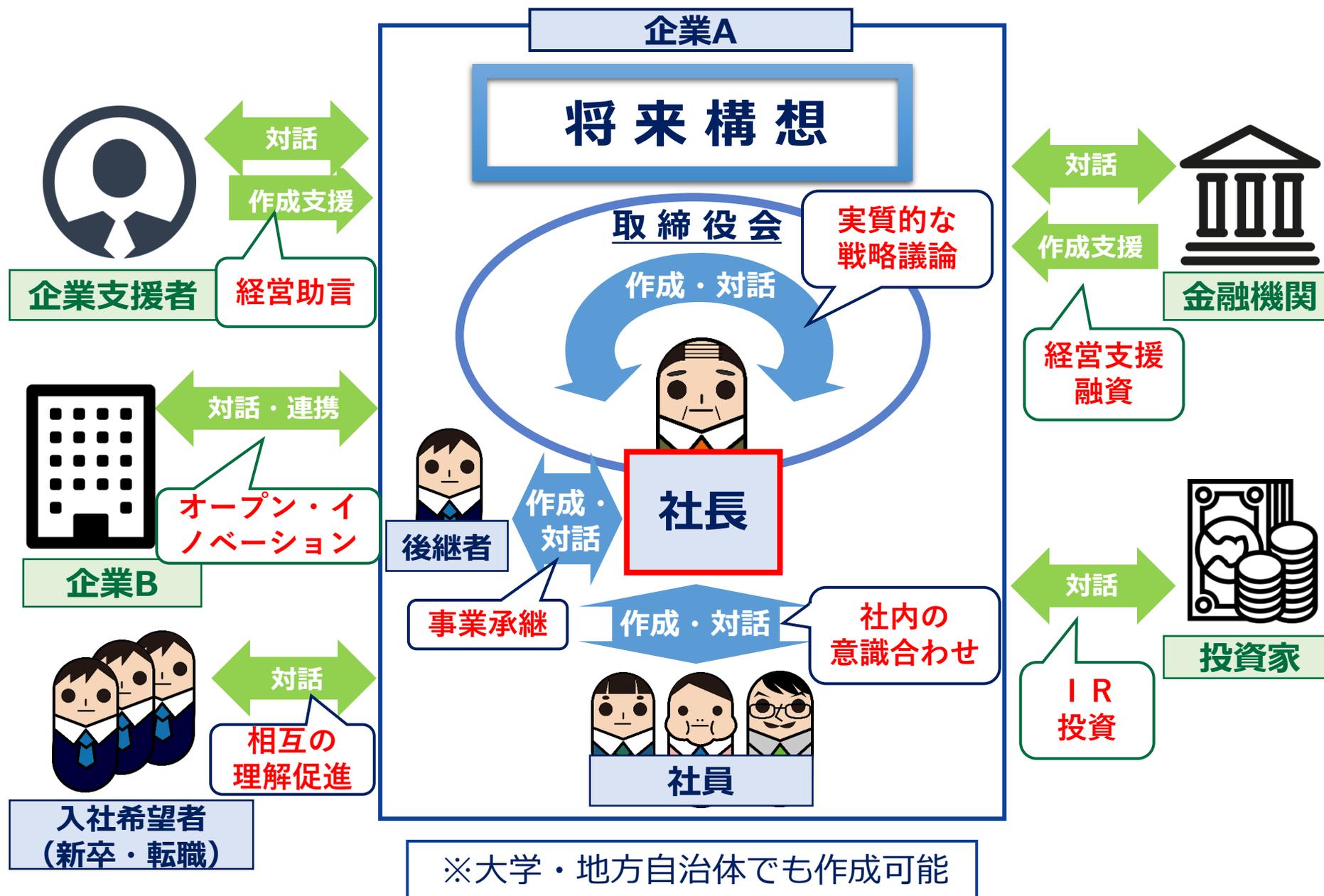
経営デザインシートの概要

100文字でいうと

環境変化に耐え抜き持続的成長をするために、自社や事業の(A) 存在意義を意識した上で、(B) 「これまで」を把握し、(C) 長期的な視点で「これから」の在りたい姿を構想する。(D) それに向けて今から何をすべきか戦略を策定する。



経営デザインシートが活用される場面



経営デザインシートの作成にあたり、難所と思われる点

経営デザインシートを作成する場面は、大きくわけて2つ

- 新しいことを構想するために作成
- 考えたものを整理し見直すために作成 例) 統合報告書の骨格を作成

【両者に共通する難所】

- ◆ 自社らしさの具体化と簡潔化の両立
- ◆ 本音で書くこと

【構想にあたっての難所】

- ◆ これからの価値創造メカニズム（特にビジネスモデル）

【整理にあたっての難所】

- ◆ 事業ポートフォリオと価値の簡潔な整理
つまり、組織の価値創造の全体像をとらえること

経営デザインシートで起こす社内の変化の実例

- ◆ **部門内の意識合わせ**（統合報告書作成の部署の意識合わせ）
自社の強みや価値を明確化でき、
空白部分やギャップを解消すべき課題として可視化
- ◆ **部門間の意識合わせ**（統合報告書作成にあたって部門間の意識合わせ）
互いの部門への理解が深くなるとともに、共通認識ができ、その後の作業が円滑化
- ◆ **経営者と社員**で将来について議論
 - ① 社員への気づきの誘導・社員の意識向上
 - ② 将来の方向性の認識が一致し、業務が円滑化
社員から新商品の提案や改善提案
- ◆ **経営者と次期経営者**で将来について議論
焦点を絞り込み議論をすることができ、新しいアイデアが受け入れられた